

令和3年度 球美中学校各教科シラバス

教科名	中学1年 社会科（地理的分野・歴史的分野）	
教科担当	大城 健太	
教科書名	社会科 中学生の地理（帝国書院）	社会科 中学生の歴史（帝国書院）
副教材名	日本地図（国土地理院） 積み上げ地理Ⅰ（明治図書） 沖縄県版地理学習ノートⅠ 地理の学習（浜島書店）	積み上げ歴史Ⅰ（明治図書） 沖縄県版歴史学習ノートⅠ 歴史の学習（浜島書店）

はじめに：これから始まる学習に積極的に意欲を持ち、主体的に学ぶ生徒（本校教育目標：知の側面）をめざし、教科ガイダンスを実施します。この1年間の学習について教科シラバスを示して説明します。

予測が困難と言われるこれからの社会で、球美中学生のみなさんが、①生きていくため、②あこがれの職業につくため、③夢を実現するためには、中学校の各教科の授業の中で身につける「主体的に学ぶ力」が、みなさんの将来に大きな力となって役立ちます。

球美中学校の各教科担当（教科の先生）は、みなさんに、「主体的に学ぶ力」が身に付くよう、「今日の目標 → 目標を達成するための授業・活動 → 今日の目標が達成できたかのまとめ・振り返り」による「わかる授業」を学校全体で実践します。

生徒の皆さんは、各教科の授業における「学び」は実生活とつながっているということを実感し、各教科が示す「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得」ができるよう努力してください。さらに、「各教科で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を活用する活動（思考・判断・表現等）」に積極的に取り組んで下さい。この地道な努力が、「主体的に学ぶ力（＝学びに向かう力）」を育成することにつながります。

教科の学びの習得は、あなたの夢をひろげます。ともに頑張りましょう!!

1 社会科の学習について

学習のねらい	【地理的分野】 ○地理的事象に関心を持てるようにし、日本の国土や世界の国々に対する理解を深める。 ○広い視野に立ち、地理的事象を多面的・多角的に捉え、身近なものと絡めて考察する力をつける。 ○資料・地図を適切に活用する力を養う。	【歴史的分野】 ○歴史的事象に関心を高め、日本の歴史に対する理解を深め、日本人として自覚を持てるようにする。 ○広い視野に立ち、歴史的事象を多面的・多角的に捉え、身近なものと絡めて考察する力をつける。 ○史料を適切に読み、考察する力を養う。
授業のすすめ方	(1) 授業は、プリントやノートで様々な課題を提示します。きれいにまとめられるようにしよう。 (2) 単なる暗記ではなく、地図や統計資料、写真等から何が読み取れるかを考えよう。 (3) 電子黒板を活用し、視覚的にわかるように授業を展開します。 (4) テレビや新聞、SNS等の社会で起きた問題（ニュース）を通して、時事問題への関心を高め社会的事象に対する見方や捉え方を育てます。 (5) アクティブラーニング型の学習をできるだけ取り入れ、お互いの意見や考えを交流させ、再度自分の考えを練り直すような「主体的で対話的な深い学び」を実践します。	
学習上の留意点	(1) 基本的な事項を『理解』し『知識』として身につける。（世界の州・海洋・国の位置関係や時代区分等） (2) 教科書や地図帳等にアンダーラインをつけたり、ノートに自分なりにメモをとる等工夫してまとめ、家庭学習で復習をしよう。 (3) 地図・統計資料・史料から何が読み取れるのかを考え、説明できるようにしよう。 (4) 世界で起きている出来事や身近な事柄と関連比較し、当事者意識をもち、主体性をもって学習しよう。 ※授業前の準備・授業中の態度をしっかりできていることが前提です。当たり前のことを当たり前にしよう！	

2 評価について

評価方法	□評価の観点は、①基礎的な「知識及び技能」、②①を活用して課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」、③①・②を学ぶ中で「主体的に学習に取り組む態度」の①・②・③の観点で評価します。 □成績は、毎学期の1回の定期テストや単元テスト、豆テストの得点、授業中の作業・態度・各種提出物を総合して評価します。 □宿題は、授業の復習や次の授業の予習のどちらかを授業の中で必ず出します。 □夏休みや冬休みにも課題があります（社会科新聞など・・・） ※定期テストの点数だけでは評価は決まりません。提出物や日々の授業を大切にしよう！
定期テスト	□単元ごとのテストを行います。 □定期テストの範囲は、1週間前までには提示します。 □授業で扱った事項、および時事問題など試験範囲で提示した範囲から出題されます。 □統計資料や史料などを用いた「思考力・判断力・表現力」を問う問題を出題します。

3 年間指導計画

月	主な学習内容および項目	教材・教具等
4月	第1時 教科ガイダンス ※教科シラバスを用いて学習内容や評価方法について説明する。	社会科シラバス
5月	【地理的分野】 第1部 世界と日本の地域構成 第1章 世界の姿 第2章 日本の姿	電子黒板 デジタル教科書
6月	第2部 世界のさまざまな地域 第1章 人々の生活と環境 第2章 世界の諸地域 第1節 アジア州	社会科学学習ノートⅡ ワーク（地理の学習）
7月	第2節 ヨーロッパ州	1学期定期テスト 6月17日（木）～ 18日（金）
8月	第3節 アフリカ州	
9月	第4節 北アメリカ州	夏休みの宿題 （社会科新聞）
10月	第5節 南アメリカ州	実力テスト 8月27日（木） ～28日（金）
11月	第6節 オセアニア州	
12月	【歴史的分野】 第1部 歴史の捉え方と調べ方 第1節 歴史の流れと時代区分 第2節 歴史の調べ方・まとめ方・発表の仕方	2学期期末テスト 11月25日（木） ～26日（金）
1月	第2部 歴史の大きな流れと時代の移り変わり 第1章 古代国家の成立と東アジア 第1節 人類の登場から文明の発生へ 第2節 東アジアの中の倭（日本） 第3節 中国にならった国家づくり 第4節 展開する天皇・貴族の政治	
2月	第2章 武家政権の成長と東アジア 第1節 武士の世の始まり 第2節 武家政権の内と外 第3節 人々の結びつきが強まる社会	
3月	第3章 武家政権の展開と世界の動き 第1節 大航海によって結びつく世界 第2節 戦乱から全国統一へ	学年末テスト 2月8日（火） ～10日（木）

4 授業をうける心構え

- ・チャイムが鳴る1分前には授業の準備をして着席し、立腰・黙想を行います。
- ・質問があるときや問いに答えるときは、黙って右手を真っ直ぐ挙げます。（無言挙手）
- ・授業で何を学習するかを確認し、目的意識を持って臨みましょう。
- ・わかったことや自分の考えを積極的に発表しましょう。
- ・他の意見を聞き、考えを深めるなど協力して学習を進めましょう。
- ・ノートやプリントは、工夫してまとめましょう。
- ・学習課題をじっくりと考え、課題を解決できたことに自身を持ちましょう。
- ・提出物は提出期限を守りましょう。

5 家庭学習のアドバイス

※毎週、木曜日に社会の宿題が出ます。（次の日の朝に提出）

- ・毎時間、宿題が出されます。教科書を使えばできる問題になっています。次の授業で必ず提出しましょう。
- ・授業の内容を振り返るためにも復習をやりましょう。その際、漢字で書くことや位置関係を意識しながら学習しよう。
- ・定期テストに向けて、自分なりの学習方法を確立できるようにしよう。【多くの問題を解くことをオススメします】
- ・世界や日本の出来事に関心を持つことが大切です。新聞やニュースを見る習慣をつけましょう。

令和3年度 球美中学校各教科シラバス

教科名	中学2年 社会科（地理的分野・歴史的分野）	
教科担当	大城 健太	
教科書名	社会科 中学生の地理（帝国書院）	社会科 中学生の歴史（帝国書院）
副教材名	日本地図（国土地理院） 積み上げ地理Ⅱ（明治図書） 沖縄県版地理学習ノートⅡ 地理の学習（浜島書店）	積み上げ歴史Ⅱ（明治図書） 沖縄県版歴史学習ノートⅡ 歴史の学習（浜島書店）

はじめに：これから始まる学習に積極的に意欲を持ち、主体的に学ぶ生徒（本校教育目標：知の側面）をめざし、教科ガイダンスを実施します。この1年間の学習について教科シラバスを示して説明します。

予測が困難と言われるこれからの社会で、球美中学生のみなさんが、①生きていくため、②あこがれの職業につくため、③夢を実現するためには、中学校の各教科の授業の中で身につける「主体的に学ぶ力」が、みなさんの将来に大きな力となって役立ちます。

球美中学校の各教科担当（教科の先生）は、みなさんに、「主体的に学ぶ力」が身に付くよう、「今日の目標 → 目標を達成するための授業・活動 → 今日の目標が達成できたかのまとめ・振り返り」による「わかる授業」を学校全体で実践します。

生徒の皆さんは、各教科の授業における「学び」は実生活とつながっているということを実感し、各教科が示す「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得」ができるよう努力してください。さらに、「各教科で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を活用する活動（思考・判断・表現 等）」に積極的に取り組んで下さい。この地道な努力が、「主体的に学ぶ力（＝学びに向かう力）」を育成することにつながります。

教科の学びの習得は、あなたの夢をひろげます。ともに頑張りましょう!!

1 社会科の学習について

学習のねらい	【地理的分野】 ○地理的事象に関心を持てるようにし、日本の国土や世界の国々に対する理解を深める。 ○広い視野に立ち、地理的事象を多面的・多角的に捉え、身近なものとして絡めて考察する力をつける。 ○資料・地図を適切に活用する力を養う。	【歴史的分野】 ○歴史的事象に関心を高め、日本の歴史に対する理解を深め、日本人として自覚を持てるようにする。 ○広い視野に立ち、歴史的事象を多面的・多角的に捉え、身近なものとして絡めて考察する力をつける。 ○史料を適切に読み、考察する力を養う。
授業のすすめ方	(1) 授業は、プリントやノートで様々な課題を提示します。きれいにまとめられるようにしよう。 (2) 単なる暗記ではなく、地図や統計資料、写真等から何が読み取れるかを考えよう。 (3) 電子黒板を活用し、視覚的にわかるように授業を展開します。 (4) テレビや新聞、SNS等の社会で起きた問題（ニュース）を通して、時事問題への関心を高め社会的事象に対する見方や捉え方を育てます。 (5) アクティブラーニング型の学習をできるだけ取り入れ、お互いの意見や考えを交流させ、再度自分の考えを練り直すような「主体的で対話的な深い学び」を実践します。	
学習上の留意点	(1) 基本的な事項を『理解』し『知識』として身につける。（日本の都道府県の特徴や時代の特徴 等） (2) 教科書や地図帳等にアンダーラインをつけたり、ノートに自分なりにメモをとる等工夫してまとめ、家庭学習で復習をしよう。 (3) 地図・統計資料・史料から何が読み取れるのかを考え、説明できるようにしよう。 (4) 世界で起きている出来事や身近な事柄と関連比較し、当事者意識をもち、主体性をもって学習しよう。 ※授業前の準備・授業中の態度をしっかりできていることが前提です。当たり前のことを当たり前にしよう！	

2 評価について

評価方法	□評価の観点とは、①基礎的な「知識及び技能」、②①を活用して課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」、③①・②を学ぶ中で「主体的に学習に取り組む態度」の①・②・③の観点で評価します。 □成績は、毎学期の1回の定期テストや単元テスト、豆テストの得点、授業中の作業・態度・各種提出物を総合して評価します。 □宿題は、授業の復習や次の授業の予習のどちらかを授業の中で必ず出します。 □夏休みや冬休みにも課題があります（社会科新聞など・・・） ※定期テストの点数だけでは評価は決まりません。提出物や日々の授業を大切にしよう！
テスト	□単元ごとのテストを行います。 □定期テストの範囲は、1週間前までには提示します。 □授業で扱った事項、および時事問題など試験範囲で提示した範囲から出題されます。 □統計資料や史料などを用いた「思考力・判断力・表現力」を問う問題を出題します。

3 年間指導計画

月	主な学習内容および項目	教材・教具等
4 月	第 1 時 教科ガイダンス ※教科シラバスを用いて学習内容や評価方法について説明する。 【地理的分野】 第 2 部 日本のさまざまな地域	社会科シラバス
5 月	2 章 世界と比べた日本の地域的特色 1 節 自然環境の特色	電子黒板 デジタル教科書
6 月	2 節 人口の特色 3 節 資源や産業の特色 4 節 地域間の結びつきの特色	社会科学学習ノートⅡ ワーク（地理の学習）
7 月	3 章 日本の諸地域 1 節 九州地方 2 節 中国・四国地方	1 学期定期テスト 6月17日（木）～ 18日（金）
8 月	3 節 近畿地方	夏休みの宿題 （社会科新聞）
9 月	4 節 中部地方 5 節 関東地方	実力テスト 8月27日（木） ～28日（金）
10 月	6 節 東北地方 7 節 北海道地方	
11 月	4 章 身近な地域の調査 【歴史的分野】 第 4 部 武家政権の展開と世界の動き 3 章 武士による支配の完成	2 学期期末テスト 11月25日（木） ～26日（金）
12 月	4 章 天下泰平の世の中 5 章 社会の変化と幕府の対策	
1 月	第 5 部 近代国家の歩みと国際社会 1 章 欧米諸国における「近代化」	学年末テスト 2月8日（火） ～10日（木）
2 月	2 章 開国と幕府の終わり	
3 月	3 章 新しい価値観の下で 4 章 近代国家への歩み 5 章 帝国主義と日本 6 章 アジアの強国の光と影	県学力到達度調査 2月17日（木） ～18日（金）

4 授業をうける心構え

- ・チャイムが鳴る 1 分前には授業の準備をして着席し、立腰・黙想を行います。
- ・質問があるときや問いに答えるときは、黙って右手を真っ直ぐ挙げます。（無言挙手）
- ・授業で何を学習するかを確認し、目的意識を持って臨みましょう。
- ・わかったことや自分の考えを積極的に発表しましょう。
- ・他の意見を聞き、考えを深めるなど協力して学習を進めましょう。
- ・学習課題をじっくりと考え、その中でノートやプリントは、工夫してまとめましょう。
- ・提出物は提出期限を守りましょう。

5 家庭学習のアドバイス

※毎週、水曜日に社会の宿題が出ます。（次の日の朝に提出）

- ・毎時間、宿題が出されます。教科書を使えばできる問題になっています。次の授業で必ず提出しましょう。
- ・授業の内容を振り返るためにも復習をやりましょう。その際、漢字で書くことや位置関係を意識しながら学習しよう。
- ・各テストに向けて、自分なりの学習方法を確立できるようにしよう。【多くの問題を解くことをオススメします】
- ・世界や日本の出来事に関心を持つことが大切です。新聞やニュースを見る習慣をつけましょう。

令和3年度 球美中学校各教科シラバス

教科名	中学3年 社会科（歴史的分野・公民的分野）	
教科担当	大城 健太	
教科書名	社会科 中学生の歴史（帝国書院）	社会科 新しい社会 公民（東京書籍）
副教材名	積み上げ歴史Ⅲ（明治図書） 沖縄県版歴史ノートⅢ 総まとめ問題集（球美 ² や入試勉強）	積み上げ 公民（明治図書） 公民の学習（浜島書店） ※ノート（個人で準備）

はじめに：これから始まる学習に積極的に意欲を持ち、主体的に学ぶ生徒（本校教育目標：知の側面）をめざし、教科ガイダンスを実施します。この1年間の学習について教科シラバスを示して説明します。

予測が困難と言われるこれからの社会で、球美中学生のみなさんが、①生きていくため、②あこがれの職業につくため、③夢を実現するためには、中学校の各教科の授業の中で身につける「主体的に学ぶ力」が、みなさんの将来に大きな力となって役立ちます。

球美中学校の各教科担当（教科の先生）は、みなさんに、「主体的に学ぶ力」が身に付くよう、「今日の目標 → 目標を達成するための授業・活動 → 今日の目標が達成できたかのまとめ・振り返り」による「わかる授業」を学校全体で実践します。

生徒の皆さんは、各教科の授業における「学び」は実生活とつながっているということを実感し、各教科が示す「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得」ができるよう努力してください。さらに、「各教科で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を活用する活動（思考・判断・表現 等）」に積極的に取り組んで下さい。この地道な努力が、「主体的に学ぶ力（＝学びに向かう力）」を育成することにつながります。

教科の学びの習得は、あなたの夢をひろげます。ともに頑張りましょう!!

1 社会科の学習について

学習のねらい	【歴史的分野】 ○歴史的事象に関心を高め、日本の歴史に対する理解を深め、日本人として自覚を持てるようにする。 ○広い視野に立ち、歴史的事象を多面的・多角的に捉え、身近なものとして考察する力をつける。 ○史料を適切に読み、考察する力を養う。	【公民的分野】 ○社会的事象に関心を高め、自由・権利・責任と義務の関係を広く認識し、民主主義の大切さを学び公民としての必要な教養を身につける。 ○広い視野に立ち、社会的事象を多面的・多角的に捉え、様々な資料を適切に収集し、選択し、事実を正確に捉え、公正に判断・表現する力をつける。
授業のすすめ方	(1) 授業は、プリントやノートで様々な課題を提示します。きれいにまとめられるようにしよう。 (2) 単なる暗記ではなく、地図や統計資料、写真等から何が読み取れるかを考えよう。 (3) 電子黒板を活用し、視覚的にわかるように授業を展開します。 (4) テレビや新聞、SNS等の社会で起きた問題（ニュース）を通して、時事問題への関心を高め社会的事象に対する見方や捉え方を育てます。 (5) アクティブラーニング型の学習をできるだけ取り入れ、お互いの意見や考えを交流させ、再度自分の考えを練り直すような「主体的で対話的な深い学び」を実践します。	
学習上の留意点	(1) 基本的な事項を『理解』し『知識』として身につける。（時代の特徴、国会の仕組み 等） (2) 教科書や地図帳等にアンダーラインをつけたり、ノートに自分なりにメモをとる等工夫してまとめ、家庭学習で復習をしよう。 (3) 地図・統計資料・史料から何が読み取れるのかを考え、説明できるようにしよう。 (4) 世界で起きている出来事や身近な事柄と関連比較し、当事者意識をもち、主体性をもって学習しよう。 ※授業前の準備・授業中の態度をしっかりできていることが前提です。当たり前のことを当たり前にしよう！	

2 評価について

評価方法	□評価の観点とは、①基礎的な「知識及び技能」、②①を活用して課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」、③①・②を学ぶ中で「主体的に学習に取り組む態度」の①・②・③の観点で評価します。 □成績は、毎学期の1回の定期テストや単元テスト、豆テストの得点、授業中の作業・態度・各種提出物を総合して評価します。 □宿題は、授業の内容に関するもの（復習）や次の授業に関するもの（予習）のどちらかを授業の中で必ず出します。 □夏休みや冬休みにも課題があります（社会科新聞）か（税に関する作文）か（人権に関する作文） ※定期テストの点数だけでは評価は決まりません。提出物や日々の授業を大切にしよう！
定期テスト	□単元ごとのテストを行います。 □定期テストの範囲は、1週間前までには提示します。 □授業で扱った事項、および時事問題など試験範囲で提示した範囲から出題されます。 □統計資料や史料などを用いた「思考力・判断力・表現力」を問う問題を出題します。 □高校入試を意識した問題を出題します。

3 年間指導計画

月	主な学習内容および項目	教材・教具等
4 月	第 1 時 教科ガイダンス ※教科シラバスを用いて学習内容や評価方法について説明する。	社会科シラバス
5 月	【歴史的分野】 第 6 部 二度の世界大戦と日本 1 章 第一次世界大戦の始まりと総力戦 2 章 高まるデモクラシーの意識 3 章 軍国主義と日本の行方 4 章 アジアと太平洋に広がる戦線	電子黒板 デジタル教科書 社会科学学習ノートⅡ ワーク（地理の学習）
6 月	第 7 部 現在に続く日本と世界 1 章 敗戦から立ち直る日本 2 章 世界の多極化と日本の成長 3 章 これからの日本と世界	1 学期定期テスト 6月17日（木）～ 18日（金）
7 月	【公民的分野】 第 1 章 現代社会の特色と私たち 1 節 現代社会の特色と私たち 2 節 私たちの生活と文化	夏休みの宿題 （税の作文・ 人権の作文など）
8 月	3 節 現代社会の見方や考え方	
9 月	第 2 章 個人の尊重と日本国憲法 1 節 人権と日本国憲法 2 節 人権と共生社会 3 節 これからの人権保障	実力テスト 8月27日（木） ～28日（金）
10 月	第 3 章 現代の民主政治と社会 1 節 現代の民主政治 2 節 国の政治の仕組み 3 節 地方自治と私たち	
11 月	第 4 章 私たちの暮らしと経済 1 節 消費生活と市場経済 2 節 生産と労働 3 節 市場経済の仕組みと金融 4 節 財政と国民の福祉	2 学期期末テスト 11月25日（木） ～26日（金）
12 月	5 節 これからの経済と社会	
1 月	第 5 章 地球社会と私たち 1 節 国際社会の仕組み	1月20日（木） 久米島高校連携入試
2 月	2 節 さまざまな国際問題 3 節 これからの地球社会と日本	
3 月	高校入試対策	

4 授業をうける心構え

- ・チャイムが鳴る 1 分前には授業の準備をして着席し、立腰・黙想を行います。
- ・質問があるときや問いに答えるときは、黙って右手を真っ直ぐ挙げます。（無言挙手）
- ・授業で何を学習するかを確認し、目的意識を持って臨みましょう。
- ・わかったことや自分の考えを積極的に発表しましょう。
- ・他の意見を聞き、考えを深めるなど協力して学習を進めましょう。
- ・ノートやプリントは、工夫してまとめましょう。
- ・学習課題をじっくりと考え、課題を解決できたことに自身を持ちましょう。
- ・提出物は提出期限を守りましょう。

5 家庭学習のアドバイス

※毎週、火曜日に社会の宿題が出ます。（次の日の朝に提出）

- ・毎時間、宿題が出されます。教科書を使えばできる問題になっています。次の授業で必ず提出しましょう。
- ・授業の内容を振り返るためにも復習をやりましょう。その際、漢字で書くことや位置関係を意識しながら学習しよう。
- ・定期テストに向けて、自分なりの学習方法を確立できるようにしよう。【多くの問題を解くことをオススメします】
- ・世界や日本の出来事に関心を持つことが大切です。新聞やニュースを見る習慣をつけましょう。
- ・高校入試に向けて、1・2年生の復習をコツコツとやっておきましょう。